



大四日市まつり^{8/6(土)7(日)}



大四日市まつりをやるかやらないか。
令和4年の春、大きな決断をすることになりました。
大四日市まつりは2年連続中止になり、今年開催すれば3年ぶりとなります。
新型コロナウイルス感染症の収束は見通せず、ウィズコロナの日常が当たり前になりつつある中、まつりという非日常を取り戻すべきなのか。
答えは簡単には出せません。
大四日市まつりを開催しても、出る側には負担がかかる。
観る側にも制限がある。
それでも。今だからこそ、やろうじゃないか。
今回の特集ではそんな想いと、大四日市まつりを実現するために話し合ったことをお伝えします。

3年分の想いが詰まった第59回大四日市まつりは、過去に例のない、特別なまつりになります。

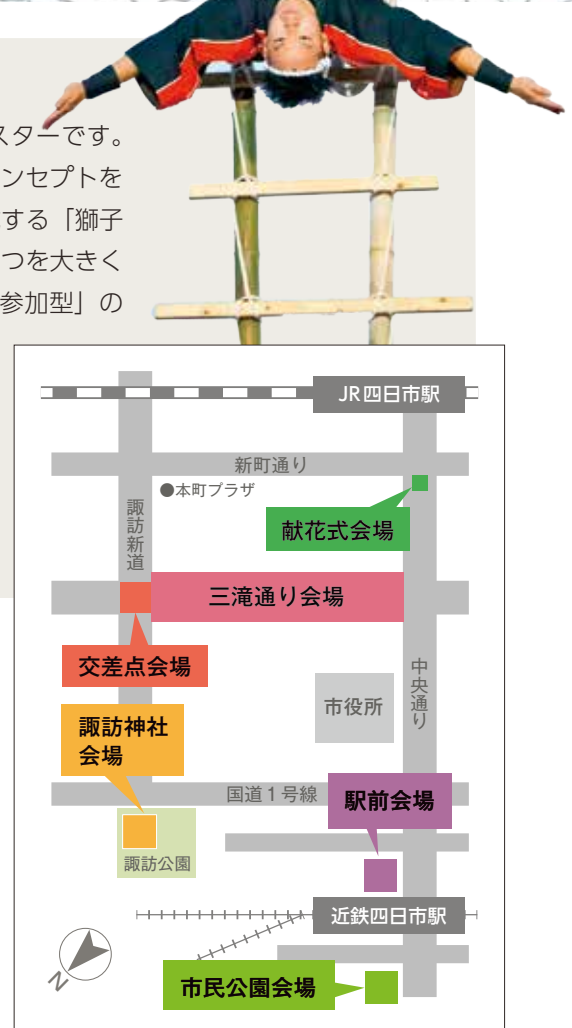
四連ポスターのコンセプト

紙面上部のイラストは、大四日市まつりPRのために作成したポスターです。大四日市まつりを表現するには1枚のポスターでは足りず、全てのコンセプトを伝えるために四連のポスターを制作しました。大四日市まつりを構成する「獅子舞」、「諏訪太鼓」、「山車・ネリ」、「大入道・こにゅうどうくん」の四つを大きく描き、さらに中央部分にまつりに出演する団体を描くことで、「全員参加型」の一体感を表現しています。

イラストは、岸和田のだんじり祭をはじめとする祭礼に関わるイラストを手掛けている「意匠 六覺千手^{ろっかくせんじゆ}」さんによるものです。六覺千手さんは「秋の四日市祭」のパンフレットのイラストも制作しており、イラストに統一感を出すことで、二つの祭りの連携をアピールしています。

大四日市まつりとは

大四日市まつりは、8月の第一日曜日とその前日の土曜日の2日間にわたって開催され、初日が「おどりの日」、2日目が「郷土の文化財と伝統芸能の日」という構成になっています。三滝通り会場、交差点会場、諏訪神社会場、駅前会場、市民公園会場など複数の会場を設け、中心市街地がまつり一色の2日間になります。



安全・安心な大四日市まつりを開催するために

2年連続の中止を経て、第59回大四日市まつりは開催に向けて動き出しました。4月末に行われた企画検討委員会には委員だけでなく各出演団体の代表が集まり、まつりの開催方法を検討しました。出演団体それぞれに出演形式による事情や考え方があり、多様な提案が挙がったことは大きな収穫でした。



各出演団体の意見とさまざまな資料を参考にして、大四日市まつり実行委員会は出演団体向けの新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインを作成しました。第59回大四日市まつりはこのガイドラインにのっとり開催します。以下はその一部ですが、準備作業や練習中、そしてまつり開催時における感染症予防対策を細部にわたって規定しています。

大四日市まつり 新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン(抜粋) ※5月末時点

- 参加団体は、予防対策等に取り組むため、感染対策責任者・パート責任者を選出し、連絡体制図を作成する
- 参加者各自が、7月23日から健康チェックシートに体温等を記入する
- 参加者同士での身体的な接触(円陣、握手、ハイタッチ等)は控える
- 人数は必要最小限に抑え、名簿に登録した参加者のみが参加するものとする

「まつりをやりたい!」 その想いを実現するために

各出演団体の想いを聞き、ガイドラインを作成することになりましたが、突き詰めていくとこれが本当に難しい。世界はまだコロナに打ち勝つことはできていません。その中でも「大四日市まつりをやりたい」という純粋な気持ちで、現実的な開催方法を模索しました。ガイドラインを守ることは大変に思えるかもしれませんが、学校に通う子どもたちは日々の健康観察などの感染症対策を実行しているわけですから、我々大人にできないはずがありません。

2年連続の大四日市まつりの中止は、文化伝統の継承という意味でも大きな空白期間でした。後継者問題は伝統芸能にとって重要な課題です。規模の縮小などは仕方ないとして、技術と伝統を存続させることが、今回の大四日市まつりの意義の一つになるでしょう。私たちにはこれまでの蓄積があるので、これからも伝統芸能がなくなることはない信じて進み続けていきます。課題はありますが、何よりもまつりを自分たちが楽しむこと。今年ほどまつりをやりたいと思ったことはありません。ぜひ多くの人に見て、参加してもらいたいですね。



企画検討委員会委員長
川北悦男さん

大四日市まつりの見どころ

「祭り」と言っても、その形は実にさまざま。
大四日市まつりは、踊りあり、太鼓あり、獅子舞あり、山車もみこしもあり。老若男女が集いそれぞれの芸を持ち寄り、多種多様な形で参加します。

大四日市まつりの最初のプログラムは、JR四日市駅前の稲葉三右衛門像前で行う献花式です。稲葉三右衛門は四日市港の礎を築いた人物。伝統的な祭礼では神様に山車や獅子舞を奉納しますが、大四日市まつりでは本市の発展に尽力した先人への敬意が祭りの形となっているとも言えます。

おどり

誰でも参加できる祭り行事といえば、踊りではないでしょうか。冒頭のポスターでも紹介している「大四日市まつり音頭」で練り踊る市民総踊りや、チームごとの振り付けや衣装で参加するおどりフェスタ。チームそれぞれの特色が出る踊りは必見です。



大四日市まつりは特別です

踊りがある祭りは数あれど、一つの会場で踊り手が入れ替わらずに延々と踊り続けるのは大四日市まつりぐらいではないでしょうか。おどりフェスタは曲と基本の振り付けがあるので、参加するハードルが低いのも特徴で、振り付けは自由にアレンジすることができます。暑い中、限界まで踊り続けても「まだまだいける!」とさらに気分が盛り上がってきます。

今回は感染症対策で踊りながらの移動はせずに、定位置で踊って1曲ごとに場所を移動する形式になりますが、繰り返し踊り続けるのは変わりません。大四日市まつりの醍醐味は維持されるので、たくさんの方に楽しんでもらいたいですね。



おどりフェスタ参加連代表
杉町恵美子さん



郷土の文化財と伝統芸能

大四日市まつりでは、市内各地区の神社や寺院などに奉納される伝統芸能が次々に披露されます。各地で大切に受け継がれてきた伝統の誇りを胸に、演者が一丸となって大四日市まつりを盛り上げます。

繋げよう後世へ、 繋がる今



大四日市の祭りを学ぼう会会長
前田憲司さん

大四日市まつりと本市の気風

日本各地の有名な祭りを思い浮かべると、四日市の祭りの特異性が分かります。全国的に山車なら山車で同じ形のものを何台も連ねる祭りが多い中、例えば諏訪神社の例祭「四日市祭」の「ネリ」は鯨船やさまざまなからくり人形、そして大名行列など、とにかく多彩です。それが大四日市まつりでは市内全域から集結するのだから、統一感はありません。格好いい・面白いと思ったものをどんどん取り入れてきた結果、このような形になったのでしょう。

大四日市まつりには、商業・工業のまちとして発展してきた本市の自由気ままな、大胆に物事を進められる気風が表れているのです。



大四日市まつり
ホームページ

最新の情報は、
ホームページからご確認ください

プログラムなど詳しくは、広報よっかいち7月下旬号
別冊「大四日市まつり特集号」に掲載します

大四日市まつり実行委員会 ☎354-8481 FAX355-8311

※掲載している画像は過去のものであり、今年度の出演団体と必ずしも一致するものではありません

3年ぶりの開催ということですべてが見所とも言える大四日市まつり。とにかく大四日市まつりが開催されることになったというだけで、今は胸躍る気持ちです。

最大の懸案事項である新型コロナウイルス感染症への対応は困難も多いですが、企画検討委員会や実行委員会を例年よりも多く開催しながら、関係者の皆様のご意見やご提案をいただき、市民の皆さんが安心して楽しめる大四日市まつりにしたいと思います。

大四日市まつり実行委員会事務局長 岡本登喜子さん

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 観光交流課 ☎354-8176 FAX354-8315